

私は今回「税の作文」を書くにあたり、税のことをもっと詳しく知りたくて国税庁のホームページを訪問しました。すると、一番最初に飛び込んできたものは「国税電子申告・納税システム（e-Tax）」という言葉でした。自宅からでもインターネット回線を通じて税金の申告や納付ができる仕組みであると知り、便利なものだと感じましたが、それ以上に気になったのは「Tax」という英単語でした。というのも、私はよく両親と商店街などに行くのですが、街を歩くと「TaxFree」「DutyFree」と書かれた看板や表示がたくさん目につきます。両親に聞くと、TaxもDutyも同じ税という意味で、TaxFreeと書いてあるのは「免税店」で外国からの観光客がここで買い物をしても税金がかからないんだ、という風に教えてもらいました。その時はあまり深くその意味について考えませんでした。今回 e-Tax という言葉を知り、国税庁のホームページなどインターネットでより深く調べていくと、あることを知りました。それは、DutyとTaxは同じ「税」という言葉であっても、その意味は大きく異なるということです。

辞書やサイトなどで調べると、Taxはもちろん「税」という意味ですが、そのほかにも「負荷」「重荷」という意味があるようです。それに対してDutyには税のほかに「責任」「義務」という意味があります。負荷や重荷というと誰かに背負わされるものと強く感じますが、責任や義務は自分から背負い果たすものという感じで、それぞれの意味は大きく違うと思いました。また学校でも教わったのですが、大昔の租・庸・調や江戸の年貢、災害やお米の不作、過酷な労働、一揆など、昔の税は重く辛いものというイメージが強いので、昔の税や年貢はTaxの意味に近いと思いました。でも現在では税はお金に変わり、その基準も農産物など不安定なものから、土地や財産、収入などを基準にみんなが公平に税を負担する制度とすることで、税は重荷ではなく、みんなが公平に税金を納める義務と責任を負うものという意味で、現代の税はむしろDutyの意味に近くなったのではないかと考えました。

さらに調べると、Taxは食品や洗剤など消費されてなくなるものにかかる消費税、Dutyは機械など消費されない輸出入品にかかる関税、という風に大きく分けることもできるとわかりました。そして、それ以上に税という言葉が日本でも海外でも重要な意味を持っていることや、税の歴史を感じることもできたのはとても貴重な発見でした。

税は医療や福祉、行政など私たちの社会で広く公平に使われ、私たちはそのおかげで便利な生活を送ることができています。Dutyが持つ意味の通り、税をきちんと納める責任と義務を果たす大人になっていきたいと思えます。